

編集部に寄贈していただいた書籍

(2008年1月～2008年12月)

- 浅海信行著『韓国・台湾・中国企業の成長戦略——課題はガバナンスと研究開発——』勁草書房 2008, vi+312pp.
- 天野弘之・井村哲郎編『満鉄調査部と中国農村調査——天野元之助中国研究回顧——』不二出版 2008, 404+(6)pp.
- 池松愛子『評伝 日本の経済思想——赤松要 わが体系を乗り越えてゆけ——』日本経済評論社 2008, xi+240pp.
- 磯部靖『現代中国の中央・地方関係——広東省における地方分権と省指導者——』慶應義塾大学出版会 2008, x+379+11pp.
- 猪口孝・カールソン編『アジアの政治と民主主義——ギャラップ調査を分析する——』西村書店 2008, xv+306+viipp.
- 馬田啓一・木村福成編著『検証・東アジアの地域主義と日本』文眞堂 2008, vii+253pp.
- 絵所秀紀著『離陸したインド経済——開発の軌跡と展望——』ミネルヴァ書房 2008, ix+272+7pp.
- 岡部牧夫編『南満州鉄道会社の研究』日本経済評論社 2008, xii+488pp.
- 小野田純丸著『資本逃避リスクの政治経済学』ミネルヴァ書房 2008, vii+276+iiipp.
- 柏木宏『NPOと政治——アドボカシーと社会変革の新たな担い手のために——』明石書店 2008, 205pp.
- 何立新著『中国の公的年金制度改革——体制移行期の制度的・実証的分析——』東京大学出版会 2008, v+201pp.
- 菊池一隆著『中国初期協同組合史論1911-1928——合作社の起源と初期動態——』日本経済評論社 2008, v+425pp.
- 北野取著『南部メキシコの内発的発展とNGO——グローバル公共空間における学び・組織化・対抗運動——』勁草書房 2008, xiii+355pp.
- 木畑洋一著『イギリス帝国と帝国主義——比較と関係の視座——』有志舎 2008, 9+249pp.
- 木村光彦・安部桂司著『戦後日朝関係の研究——対日工作と物資調達——』知泉書館 2008, xviii+325pp.
- 京論壇東京大学実行委員会編『東京大生×北京大生 京論壇——次世代が語る日中の本音——』明石書店 2008, 224pp.
- 金敬黙『越境するNGOネットワーク——紛争地域における人道支援・平和構築——』明石書店 2008, 224pp.
- 金成垣著『後発福祉国家論——比較のなかの韓国と東アジア——』東京大学出版会 2008, x+254pp.
- 金湛著『中国の経済発展と格差——産業構造および地域特性に基づく研究——』晃洋書房 2008, v+168pp.
- 小林寧子著『インドネシア 展開するイスラーム』名古屋大学出版会 2008, vii+467pp.
- 佐原徹哉著『ボスニア内戦——グローバリゼーションとカオスの民族化——』有志舎 2008, 6+443+5pp.
- 塩地洋編著『東アジア優位産業の競争力——その要因と競争・分業構造——』ミネルヴァ書房 2008, viii+236pp.
- 篠崎尚夫著『東畑精一の経済思想——協同組合、企業者、そして地域——』日本経済評論社 2008, vi+314pp.
- 徐勝監修/金津日出美・庵逄由香編集『現代韓国民主主義の新展開』御茶の水書房 2008, ix+354pp.
- 薛進軍・荒山裕行・園田正編著『中国の不平等』日本評論社 2008, xiii+237pp.
- 田島俊雄編著『現代中国の電力産業——「不足の経済」と産業組織——』昭和堂 2008, vii+286pp.
- 戸堂康之著『技術伝播と経済成長——グローバル化時代の途上国分析——』勁草書房 2008, xi+265pp.
- 永野慎一郎著『相互依存の日韓経済関係』勁草書房 2008, xiii+416pp.
- 中村亨著『経済発展の計量分析』晃洋書房 2008, xiii+226pp.
- 西浦昭雄著『南アフリカ経済論——企業研究からの視座——』日本評論社 2008, viii+325pp.
- 西澤泰彦『日本植民地建築論』名古屋大学出版会 2008, x+484+18pp.
- 早尾貴紀著『ユダヤとイスラエルのあいだ——民族/国民のアボリア——』青土社 2008, 345+(3)pp.
- 広瀬佳一・小笠原高雪・上杉勇司編著『ユーラシアの紛争と平和』明石書店 2008, 321pp.
- 樋渡雅人『慣習経済と市場・開発——ウズベキスタンの共同体にみる機能と構造——』東京大学出版会 2008, ii+271pp.
- 弁納オ一・鶴園裕福『東アジア共生の歴史的基礎——日本・中国・南北コリアの対話——』御茶の水書房 2008, xi+342pp.
- 堀和生編著『東アジア資本主義論——構造と特質——』ミネルヴァ書房 2008, v+286pp.
- 松村圭一郎『所有と分配の人類学——エチオピア農村社会の土地と富をめぐる力学——』世界思想社 2008, xiv+324pp.

- 松村高夫・柳沢遊・江田憲治編『満鉄の調査と研究——その「神話」と実像——』青木書店 vii+520+XIVpp.
南亮進・牧野文夫・羅歙鎮著『中国の教育と経済発展』東洋経済新報社 2008, xii+258pp.
矢倉研二郎『カンボジア農村の貧困と格差拡大』昭和堂 2008, xiii+556
吉原直樹著『モビリティと場所——21世紀都市空間の転回——』東京大学出版会 2008, xi+275+xxiv pp.
レオナルド・ブリュッセイ著／深見純生・藤田加代子・小池誠訳『竜とみつばち——中国海域のオランダ人400年史——』晃洋書房 2008, xvi+235pp.
ロバート・ポーリン著／佐藤良一・芳賀健一訳『失墜するアメリカ経済——ネオリバラル政策とその代替策——』日本経済評論社 2008, xxiii+338+11pp.
若林正丈著『台湾の政治——中華民国台湾化の戦後史——』東京大学出版会 2008, xvi+458+30pp.
- Andrea B. Rugh, *The Political Culture of Leadership in the United Arab Emirates*, Palgrave Macmillan 2007, xiii+269pp.
Pasuk Phongpaichit and Chris Baker eds., *Thai Capital after the 1997 Crisis*, ISEAS 2008, xv+309pp.
Yehouda Shenhav, *The Arab Jews: A Postcolonial Reading of Nationalism, Regionalism, and Ethnicity*, Stanford University Press 2006, xiv+263pp.